
鍵山雛と人間

天澤 星次

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鍵山雛と人間

【Nコード】

N1328S

【作者名】

天澤 星次

【あらすじ】

厄をため込む程度の能力を持った鍵山雛とその厄神に触れようとする人間。その人間に「触れるな」と人間のためを思って突き放す鍵山雛。そして疑心暗鬼。その小さなストーリーを書いてみました。そしてこの小説にはダブルリアット（byアゴアニキ）という曲の歌詞に少しですが合わせて書きました。一応鍵山雛の一人称で少し特殊な書き方をしています。あまり読んだ事はないのですが詩みtainな書き方になっているかも。

（前書き）

鍵山雛は厄をため込む程度の能力とWikiにはありますが回っていないと身にためた厄が飛んでいつてしまう。という設定に勝手にさせていただきました。ご了承ください。後ダブルリアットという曲はともよいのでこの小説を読んでも読まなくても是非聞いて欲しいですね。

私は鍵山雛

人間の厄を払いのける能力を持つ

自分の中に厄を溜め込んで人間達を守っている

ずっと回っている事で周りの厄を効率よく吸うことができる

所謂ダイソンの原理だ

回ったら前以上に厄を払う事ができた

それが嬉しかった

嬉しそうにしていると仲間ができた

ハガーとザンギエフと名乗るマツチヨの人

握手を求めてきたが私に触れると厄が移ってしまう

だから私は

「触れるな」

と言った

私もこんな事は言いたくない

あなた達と一緒に回ってみたい

でも仕方ない

厄を被うのが私の役目だから

でも彼らは分かってくれた

暖かい人たちだった

二人はリストバンドを投げてよこした

ぼろぼろだった

それは彼らの宝らしい

何故宝をくれるのか

私が仲間だから

だそうだ

それが嬉しかった

嬉しそうにしていると今度は普通の友達ができた

ずっと座って私を見ているだけ

「何を見ているの」

と問うと

厄を吸うために回っている私の姿をその友達は綺麗だと言ってくれた

その日の次の日もその次の日もその友達は私のところへ来てくれた

それが嬉しかった

嬉しそうにしていると友達が友達を連れてやってきた

その友達は名を名乗って握手を求めてきた

どうやら説明はしていないらしい

友達が慌てて止めようとする

でもその手は私に今にも当たりそうだった

「触れるな」

友達の友達の表情が険しくなる

だって

私に触れると

「は？」

厄がつくから

「握手しようとしただけでしょ？」

だから

「何でずっと回ってるの？」

だから

「キモチワルイ」

遠ざけた

「かえる」

だけなのに

その友達は怒って帰ってしまった

友達もその友達を追って帰ってしまった

私は正しい事をした

私はあの友達を厄から守った

私は

正しい事をしたんだ

でも

それが悲しかった

悲しさが溢れて涙を押し出した

その日から友達が来なくなつた

その次の日もそのまた次の日も友達は私のところへ来なかつた

その日から私は

回る事を

やめた

もう

疲れた

私は目を瞑つた

すると日が過ぎた

すごく早く日が過ぎた

過ぎて過ぎて過ぎ過ぎた

目を覚ますと木々で囲まれた山は火に包まれていた

空からは何か赤いものが落ちてきている

地が揺れている

津波がきている

厄が放たれた

ふと見下ろすと木々で見えなかった人里が見える

真っ赤に燃えていた

家が焼け

地が裂け

人間が横たわっていた

私が回る事をやめたから

私が守ってやってたのに

私にあんな事言っから

私に会いに来ないから

「ザマアミロ」

思い知ったか人間

思い知ったか友達

思い知ったか

ねえ

何故

何も言い返さない

何故

何も聞こえない

何故

いない

人間が

いない

思い知る人間が

いない

どこにも

いない

別にいなくならなくてもいい

傍で座っててくれるだけでもいい

キモチワルイって言ってもいい

思い知るだけでいいから

だから

いてよ

人間

でも

いない

どこにも

いない

私の厄が

私の身に満ちた厄が

この地に厄をもたらしたから

もういない

まだ

なんでだろう

涙が出てきた

なぜ

なんで

どうして

どうして

手に土がつく

小さく地がゆれる

手が痛い

でもすぐに直るだろう

心が痛い

すぐに直るかな

人間は

痛いかな

直せるかな

分らない

今から回れば

直せるかな

たぶん

無理だ

ん

なんだこれ

ハガーとザンギエフがくれたリストバンド

腕に付けてみた

ぶかぶかで

振り回せばすぐ

はずれそうだ

でも

どうしてだろう

いまなら

できそうなきがした

私は回った

回って回って回った

円のように飛んでしまいそうなほどに回った

周りの

全ての厄が

集まってきた

火が消えた

体が熱い

津波が消えた

体が寒い

地割れが戻った

体が

痛い

限界だ

人間は

元に戻ったかな

意識が持たない

辺りが暗くなる

もう疲れた

また寝ようか

「誰？」

誰かが私の名前を呼ぶ

それは私が一番聞きたかった声

目を覚ますと私は回っていた

目を瞑ったまま回っていたようだ

周りは全て元に戻っていた

やった

私はやった

全部元にもどせた

「昨日はごめん」

友達の後ろにいた友達の友達がそう言った

どうやら説明してくれたらしい

でも

昨日？

そうか

そういう事が

私としたことが

厄に侵されていたのか

あれは夢だったようだ

よかった

それが嬉しかった

嬉しそうにしていると友達の子達が謝ってきた

そして

「仲直りの握手をしよう」

握手を求めてきた

近い

当たる

「触れるな」

ああ

またいつもの癖で

つい

言ってしまった

また怒って帰ってしまうのかな

友達の友達は

帰って

「ありがとう」

帰って

きてくれた

友達は笑っている

友達の友達も笑っている

それが嬉しかった

嬉しさが内から溢れ出して

また

涙が

押し出された

（後書き）

忙しさから開放されたから色々なアイデアが浮かんで今日がー
っと書いてみました。ダブルリアットを聞いて回っている東方キ
ャクターがいたなとWikiで調べるとなんとも切ない（自分的
には）キャラですね。人間の厄を被う為に好きな人間と触れ合う事
ができない。そんなジレンマにはさまれた時の雛の思いが読者様に
伝わると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1328s/>

鍵山雛と人間

2011年10月8日11時53分発行